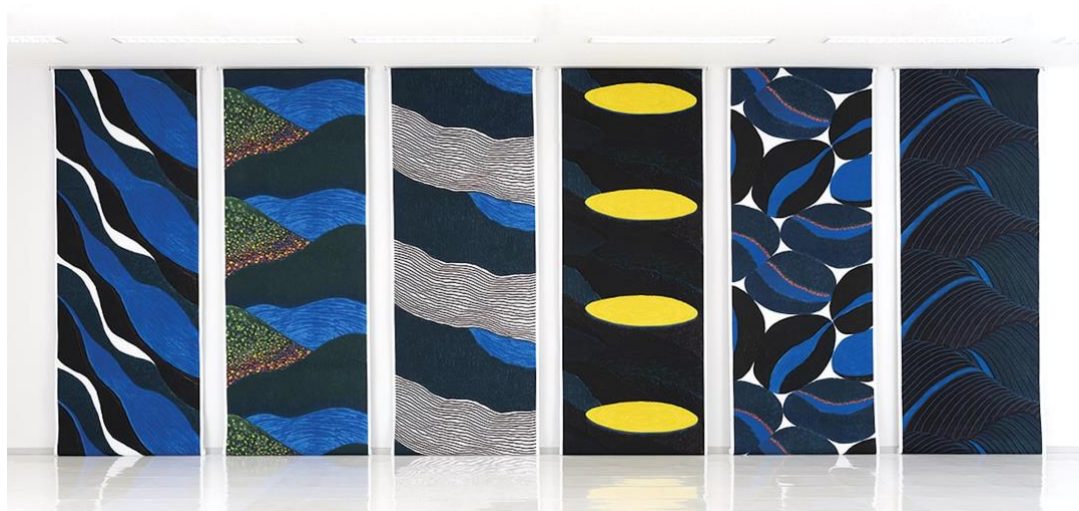


宮本 佳子  
MIYAMOTO Kako



observe

スクリーン捺染、綿布

## observe

日々たくさんのスケッチを描いてきた。

それは、いつか見た風景の色やかたちが自分というフィルターを通して再構築され、見たこともない景色に変化していく感覚を大切にしながら生まれてきたものだ。そのスケッチの表情をスクリーン捺染の版表現の技法を用いて布に表すことで、奥行きを感じられるような作品づくりを続けてきた。

スケッチの原画をスクリーン捺染の作品として作り上げていくには、色や描画材を変えながら描いた微妙なタッチを細かく重ねていく必要がある。ペンや色鉛筆で描いた小さな原画をPCに取り込み版ごとに分解したものを出力し、その上に実際の布の大きさに合わせて描き足すなどの工夫を重ねた。そうすることで一枚の布の中に奥行きが生まれ、作品を見た人が抱くイメージが大きく広がっていくような作品を目指してきた。

何枚もの版を重ねてひとつの色を表現していく過程は、スケッチを描いたときの最初の気持ちを残しながら制作していることを実感できる瞬間だと感じる。

修了制作では「うつわ」という言葉をテーマに制作を行った。

うつわは道具としての意味以外にも様々な概念的な意味を持ち合わせている。このうつわという言葉と向き合う中で、自分の中には記憶や想いを内包するうつわがあるのではないかと考えた。そしてその想いが人によって受け止められたり、外へと溢れ出したり、思いもよらず攪拌されたりしながら形を変えていく瞬間を表現したいと思った。

制作にあたり今まで描いてきたスケッチを振り返り、自分を通して生まれた景色を観測しながら色々な視点から切り取るように作品の原画を作り上げた。

ひとつの風景から何か思い起こされるとき、そのきっかけとなるのはその中の色、一枚の葉や雲のかたち、山の稜線、水の流れ、そのときの空気、音、匂いなど人によって様々だと感じる。わたしが風景を観測する中で、それを呼び起こすきっかけとなった要素をたくさん詰め込んだこの作品が誰かとつながり、その人の“いつか”を呼び起こす存在になったら嬉しく思う。